



◇指導方法

行事、校外学習の事前学習に使用する。  
 校外学習の事前学習では、カレンダー、行く場所の写真と併用して、いつ、どこに行くのかを知らせる。子どもを表すペーパーサート、学校から行き先までの道のりを表した模型などを使って、実際に動かしながら活動内容を知らせる。その後、手元で照らし合わせながら確認する。そのために、模型はしおりと同じ形式のものを用意する。また持ち物の実物を用いてしおりの絵と照らし合わせながら確認する。書き込み式のものも用意し、文字を書き込んだり、活動内容を精選したり、絵やシンボルのみを使用したりして、児童の実態に応じたしおりを作成する。

当日の活動では、しおりを使用し、活動内容と照らし合わせることで活動の確認をする。また事後学習では、しおりに書き込んだり、写真と照らし合わせたりしながら活動を振り返る。

◇指導のねらい

- ・しおりを読み取ることで、行事や校外学習などの活動に期待感をもつことができる。
- ・日時、場所、活動内容などを知り、見通しやイメージを持つことができる。
- ・文字やシンボル、絵の意味などを読む力を育てる。

◇指導の評価

1年生の春の遠足から、行事や校外学習のたびに繰り返し使用してきたことによって、しおりをもらうと、普段とは違った楽しい活動があると期待感を持つことができるようになってきた。

自閉的傾向を持つ児童は、視覚的情報を得られることで、見通しが持て、安心して活動に取り組めた。文字にシンボルや絵がついていることで、内容を理解し、自分から言葉やサインで伝えてくるなど、その活動を楽しみにしている様子が見られた。文字の理解や表出がある児童には、書き込み式の物を用意したことによって、いつ、どこで、どんな活動をするかということ、自分で書きながら確認することができた。

学校で事前学習を行った後、家庭に持ち帰り、親子で翌日の持ち物を準備したり、しおりを媒介にして家族とやりとりしたりする児童もいた。繰り返し使ってきたことで、使い方がわかってきた家族もある。

また、活動中にも、活動としおりを照らし合わせることで、活動と絵や文字を結びつけることができるようになってきた。活動と絵が結びついたことによって事後に、絵を描いたり、教師や家族とやりとりしたりして、活動を振り返ることもできた。